

# あさかぜ

高知学芸高等学校同窓会関東支部

機関誌 33号

2020.9

〒263-0005

千葉県千葉市稲毛区

長沼町 263-16-3 石川明男

TEL. 043(257)2614

FAX. 043(257)2614

第33回関東支部総会は  
関東支部同窓会幹事会が10月24日(土)に  
初のオンラインで開催します！

第32回(2019年)関東支部総会レポート

特別授業レポート

久礼大正町市場とカツオ漁師町をいかに復活させたか  
田中 隆博 氏(20期)

SPECIALインタビュー

ウイン・パートナーズ 秋沢 英海 氏(20期)

各期の声

第33回総会 特別授業・特別企画のお知らせ

高知学芸高校同窓会関東支部 第33回総会のご案内



第32回 (2019年) 関東支部総会 開催

心配した台風の影響もなく秋晴れの、2019年10月26日(土)昨年同様、東京都千代田区にある「学士会館」において、第32回関東支部総会が開催されました。記念すべき令和元年の開催となる今回は、来年還暦を迎える20期が運営を担当させて頂きました。

来賓として、同窓会本部からは、西川博行会長(6期)、福田恵美副会長(6期)、学校からは橋本和紀校長(20期)、森下表先生(17期)、蒲原宜彦先生(25期)、特別企画では田中隆博氏(20期)の皆様が遠路はるばる高知からおいで下さり、1期生から45期生までの関東支部会員の約80名の方々にご参加頂き、大変盛大な会となりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。



西川支部長



第32回 総会風景

総会では、議長の國見さん(1期)の議事進行のもと、西川支部長からの活動報告、西会計担当からの会計報告(詳細は17ページ参照)が行われました。また、ご来賓の方のご紹介とともに、西川同窓会本部会長、橋本校長にご挨拶頂きました。

西川同窓会会長には、同窓会本部から新しいお知らせを共有していただきました。「学芸高校同窓会の第15番目の支部といたしました。地元高知で高幡支部が昨年(2018年)9月に誕生いたしました。須崎市を中心に、中土佐町、四万十町、津野町、梶原町を活動エリアとし、昨年9月1日に総勢46名が集

まってもにぎやかな設立総会が開催されました。これからの活動を楽しみにしております。次に、日頃からご覧いただいている学芸高校同窓会のホームページです。このホームページの更新作業は、これまでは業者に委託しておりましたが、これからは関東支部ではおなじみの、19期生の浜田祥夫さんが、現役時代に培ったノウハウを使って管理していただける事になりました。すでに一部リニューアルされておりますので、ぜひご覧頂きたいと思っております。」

橋本校長先生からは、学校の様子を紹介していただきました。「大学入試も英語の民間試験を利用するという動きになっており、学校としても抜かりの無いように対応しています。今年から、生徒一人ひとりが外国の方と1対1でネット使って会話をしつつ課題をこなすオンライン英会話を授業に導入しております。」



同窓会本部 西川会長



橋本校長先生

中学3年生時点で、英検準2級に7割以上の生徒が合格する力をつけておりますので、その力を土台にして活用力を高めていく取り組みをしております。今年はおーストラリアの姉妹校に訪問する年で、夏休みに20名の学生がキャンベラにある姉妹校を訪問して交流を深めました。今、学芸での話題はもう一つ、国際生物学オリンピックでございます。本学高校2年生の学生が日本代表に選ばれました。結果を楽しみにしております。」

特別企画として今年の総会幹事である20期の田中隆博氏より「久礼大正町市場とカツオ漁師町をいかに復活させたか」についてお話頂き、会場は大いに盛り上がりました。「さよならは言わない」斉唱のあと、高知県東京事務所副所長 橋本卓夫様よりお話を頂きました。

(20期 種澤園子、

31期 西田順也 記)

特別授業

久礼大正町市場と  
カツオ漁師町を  
いかに復活させたか  
田中隆博氏(20期)



先輩方の前で話をするのもなんですが、高知と東京の結びつきがもつと近くなればという思いもありまして、このお話を受けることにしました。

今日は、大正町市場をどういうふうに復活させたか、まあ維持しているだけなんです、僕がやってきた活動についてお話しします。鰹の国の復活と、鰹ソムリエ、ガストロノミー、これが僕の今までのキーワードであり、これからのキーワードでもあります。

「鰹の国の復活を目指して」

28年前、ちょうど上海列車事故の翌年に東京の会社を辞めて帰ってきた故郷は、昔のような活気はなく、

<田中 隆博氏 略歴>

- ・1961年：久礼大正町市場の鮮魚店の長男として生まれる
- ・1973年：高知学芸中学入学・学芸養成寮入寮  
川添哲夫先生剣道部入部
- ・高校時：剣道四国総体団体優勝、県総体個人・団体優勝
- ・1979年：慶應義塾大学 法学部入学
- ・1982年：1年間アメリカ留学&遊学  
車にて大陸横断一人旅
- ・1984年：慶應義塾大学卒業  
(株)スワニー入社 上海6年半駐在
- ・1988年：上海列車事故前日、蘇州で川添先生と再会  
事故発生後1週間、上海にて救援活動を手伝う
- ・1990年：実家高知の田中鮮魚店にUターン就職
- ・1991年：中土佐町「カツオの国」プロジェクトメンバーとして「カツオ祭り」を中心とする久礼大正町市場とカツオ漁師町の復活プロジェクト中心メンバーとして活動開始
- ・2014年：一次産業への貢献が認められ、農林水産大臣賞を受賞（(財)食品流通構造改善促進機構主催）
- ・2017年：地域商業・水産業への貢献が認められ、赤坂御苑での「春の園遊会」へ招待して頂く
- ・現在：(有)田中鮮魚店社長  
久礼大正町市場協同組合理事長  
企画ど久礼もん企業組合理事

漁師さんの収入も落ち込み、ちよつと寂しい状態でした。スーパーマーケットが全盛で、漁師さん達がどんどん廃れていったのが、その頃の様子でした。同級生にも何人か漁師がいました。おんしやが高う買わんき、嫁さんに怒られる」と、文句を言われていました。彼らは鰹を釣りたいのに、鰹船を降りるしかなかったのです。せつかく僕が帰ったのに、こりゃいかん、漁師の所得を倍にして、魚屋ももうかる「鰹の国の復活」を心に抱きました。

とは言え、魚屋が嫌で学芸に行つて、東京の大学まで行ったわけですから、魚の知識もなく、切り方すらわからない。切り方はそのうち覚え

るだろうが、マーケティングはさっぱり。

とりあえず、役場と商工会の先輩を口説いて久礼の鰹を県外に宣伝していくことにしました。ちょうど岡山から鳥取に高速が通じた頃です。高知と日本海が通じるということで、開通イベントに鰹とわら、鉄灸、ドラム缶を車に積んで各地で焼きまくったのですが、何やこの赤い魚は、と言われる始末。

ちよつと臭いし、ちよつと汁が出るけど、初鰹の時期だし、安かったら食べようか、が、鰹のイメージ。当時、高知は鰹が日本一と自慢していましたが、香川ではほとんど知られていないし、岡山では、鰹を食べ

たことがない人がいっぱいいる。なんで県外の人に伝わっていないのか、要は鰹にはハズレがある、ハズレの鰹をたくさん食べさせられたから、おいしくないという先入観があるのではないか、それならハズレを除けばいいんじゃないかと考えたわけです。

当時の高知の鰹の売り方といったら、「昨日の鰹臭かったで」と言われても、「あー、ごめんごめん鰹やきね」で終わり、交換もしないんです。おいしい鰹を保証すれば、それまでの売り方のおかしい部分を修正すれば、ビジネスになるのではないかと感じました。



特別授業風景



## 「おんちゃん達の教え」

鮮度落ちが早い鰹は、硬い、臭い、脂があつたりなかったり、酸っぱかったりと、鮪の赤身と違って、干差万別で微妙な違いで味が変わる難しい魚です。難しい分、ものすごく面白い魚なんです。はずれの見分け方や魚群の時期を研究するのに、じゃあ、誰に習うかとなったら、やっぱり久礼のおんちゃん達に習うのが一番早いと思いました。

おとといも久礼で3トン水揚げがあつたんですけど、気仙沼を見たら120トン。巻き網漁でどんどん揚げるので、トン数が全く違う。巻き網漁が盛んななかで、あえて一本



熱心に聴講

釣りに挑む変なおんちゃん達。おんちゃん達は、群れにあたると餌をばらまき、一時間でも二時間でも鰹が餌を食うまで待っているんです。その間に情報を聞きつけ、巻き網船が寄ってきてぐるっと囲みだすわけですが、東京の企業人からするとその前に網で取ればいいじゃないかと、なんで竿持つて立てつちゆうという話になりますよね。でも、おんちゃん達に聞いたら、いやあ違う、他の船が来たら腕がなるんや、銭金の問題じゃない、今日は俺らが一番になるんだと。そういう鰹船のOB達が町中にいる。毎日新しい鰹を食べてるからレベルが高い。ただのおんちゃんなんですけどレベルが高い。このおんちゃん達に鍛えられることになりました。

「こら、おんしゃあ、昨日の鰹、臭かったろうが！」と怒りながら、また鰹を買っていきます。怒鳴られながら毎日鰹を売っていると、鰹の切り方は一年くらいで身に付きます。ただ、品質を選ぶ技術や割った瞬間に見分ける技術というのがなかなか身につかなくて、15年かかりましたね。

久礼の鰹は久礼だけで食べられて、須崎、葉山、



西は窪川まで、農家の人まで鰹を語ります。みんな「俺が一番うまい鰹を知っちゃう」と自慢します。この鰹の文化はすごいなと思いますね。江戸時代から鰹王国と呼ばれたのは宇佐町、久礼、清水ですが、300

〜400年間、鰹で暮らしてきているので、その食文化がものすごく積み上がっていて、それを如何にして技術として残すかが課題で、その最たるものが鰹を見分ける技術です。鰹を釣る技術は、船の大型化や機械化、魚探技術が進み、新興勢力でもすぐ追いつきますが、鰹を見抜く力というのは、やっぱり300年、400年培ったものにはまず勝てません。

僕も技術を残すために、自ら、鰹ソムリエを提唱して、テレビなどで鰹の説明をしたりしています。余談ですが、この前、某テレビ局が鰹の美味しい見分け方というテーマで、一週間撮影していったんですけど、

結局、言葉で表すことができず、自分の未熟さを痛感したところです。あれが没にならなければ、久礼も一躍有名になっていたはずですが、4Kカメラで撮ると、僕が言うまじい鰹もおいしい鰹もすべて綺麗に美しく見えるわけです。その違いを説明するのが難しく、途中であきらめました。見られた方もいらつしやるかもしれませんが、結局、おいしい鰹の氷のあて方ということで、氷をあてる場面だけが映っています。[量ではなく、

## 「おいしい鰹が食べられる町に」

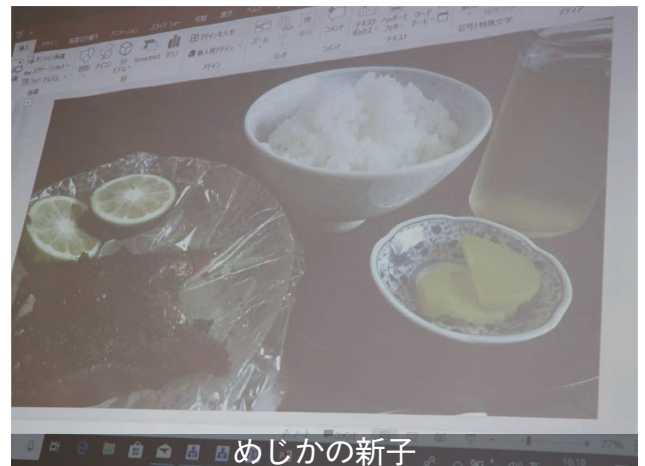
鰹がたくさん取れる町ではなくて、おいしい鰹が買える、食べられる町というのを目指そうと考えています。気仙沼の漁獲量は120トンですが、多分おいしい鰹が食べられる技術、場所ということでは、須崎、久礼のほうがずっとレベルが高いです。たたくはある程度ごまかせても、刺身は技術がかなりいるので、食べるほうにも技術がいるんです。脂が少ないあつさりした鰹、脂ののつた鰹とか、鰹の好みが高知県人は、皆バラバラなんです。僕達は味を見分け、お客さんの好みによって振り分けることができます。久礼、須崎では当たり前前で、小さい

魚屋さんでもできます。いくらスーパーマーケットが出てきても、鯉の技術のおかげで一軒も魚屋さんがつぶれていません。

「魚を食べて暮らす文化を売りたい」

食文化を残すとはどういうことなのか、僕はは何を残したいのかというのをよく考えます。東京と久礼の差はやはりお金ですよ。例えば、僕が一生懸命働いても従業員20人の規模が久礼の田舎では精一杯。さらに大きくしようとすると、高知市内に出店して、東京に出店といった展開になります。じゃあ僕は何のために久礼に帰ってきたのか、東京に進出するために久礼に帰ってきたわけではない。

僕は田舎で生きている限り、目標を別に持たないといけない。久礼という豊かな食文化、豊かな土地で、東京とは違う価値観で幸福に暮らすこと、鯉を釣って喜ぶおんちゃん達が幸せに暮らせる場所があつていいと思うのです。おんちゃん達が、所得が減ってやめざるをえないというのはおかしい。一方で、おんちゃん達の一番不得意なことは、お金儲けです。そのお手伝いを僕達があげます。久礼では30年前と比べて、鯉のキロ単価



めじかの新子

は倍以上になり、今の30代は所得も倍増し、漁師志望の地元の子たちも増えてきています。漁師さんがいなくなってさびれると文化がなくなります。久礼で一番豊かさを感じるの朝取れた魚がお昼に食べられることです。めじかの新子売り出したのも我々ですが、朝取れた新子を12時、1時くらいまでに食べるとい話でした。町長が翌日まで新子が食べられるようにと特殊な氷の工場を作ったのですが、何回食べてもおいしくないんです。僕達がいとも食べている新子の食感がまったくなくて、ただの魚を築地に送って、東京に挑戦するとは馬鹿

げてないかということになって、僕達と一緒に新子が食べたかったら久礼に会い、といううたい文句にしました。そしたら本当に来てくれるようになったんです。価格も一匹20円だったのが500円になって市場

のおばちゃん達も大喜び。一方で価格が高くなり、地元の人を食べられなくなってきたのも事実です。これが商売道具、つまり500円のただの魚になってしまったら、品質の保証ができません。今は漁師さん自身が毎日食べて、これだったら大丈夫という魚をお店に出しているので、まずあたるような事はないですが、一匹1000円といった高級魚になると、自分で食べずに、ただ売られるだけ。お客さんに価値を決めてもらう商品になって、だんだんレベルが下がってきます。そうなると思えば、あめじかはもう食べられなくなります。

売価が高くなるということが一概に我々が喜ぶべきことではないんです。漁師さんは高く売れると喜びますが、僕達の心配は魚価が高くなりすぎて食文化が変わってしまうことです。自分達が魚を食べて暮らす文化を売っているのが、ただの魚を売る町になってしまうことは避けた

い。鯉もこれ以上高くなってくると、僕の儲けは増えても、ただの投機になってしまいます。鯉の食文化を壊さないようその辺のバランスをどうとつていけばいいのかが僕の関心事です。

最後に、食文化を残しながら、どうやって久礼が生き残っていくのかを考えていくと、やはりお金じゃないという結論にたどりつきます。高く売れることが必ずしもいいことではありません。食文化、美食の文化、例えば、ヨーロッパも認める鯉の食文化を形作れないかという野望を持っています。今、若い人達をヨーロッパに連れていって、食文化、ガストロノミーを勉強しながら、鯉と言えば高知だね、高知と言えば久礼だねと、お客さんが何十年も訪れてくれるような町になればいいなと思いつつ、日々過ごしています。



ご講演有難うございました



第32回 (2019年)

関東支部同窓会・懇親会 写真特集

続く懇親会では、田中隆博氏の乾杯で始まり、懐かしい再会や新たな出会いに会場はさらに賑わいを増していました。今回は、幹事の20期の皆さんが企画した「じゃんけんゲーム」を2回戦行いました。1回戦は各テーブルから代表を選出し、壇上で決勝戦を行い、2回戦は橋本校長対全員で行い、それぞれ勝者5名に商品券を進呈しました。白熱した戦いに参加者の皆様には思いつきり楽しんで頂きました。

そして今年も、23期の久里きなこさんに「高知に来てみ素晴らしい」を独唱して頂き、壇上に飛び入り参



田中氏より乾杯の音頭！

加をして下さった方と共に「ふるさと」を熱唱して頂きました。更に、3期生の宮侑司さんから関東支部トレーニングクラブの活動報告をご紹介頂くとともに、卒業50年を迎える11期の皆さんに記念品の贈呈を行い、あつという間の楽しいひと時となりました。

最後に「学芸賛歌」を全員で大合唱し、今年の総会はお開きとなりました。

今年の第33回総会は、コロナ禍の影響により、10月24日(土)に、初のオンラインでの開催を予定しております。



幹事の20期生のみなさん



来賓



来賓

懐かしい顔ぶれに話は尽きず、あつという間の楽しいひととき！



来賓





橋本校長先生も参加したじゃんけんゲームで会場は大盛り上がり！



久里きなこさん(23期)の熱唱！内藤さん(11期)も飛び入り参加！



卒業50年の11期生に記念品贈呈



里山トレッキングクラブの紹介



全員で「まろき輪」を作り学芸讃歌を大合唱！



# SPECIAL インタビュー

32歳にして事業再生、  
その後会社を

拡大し続けた経営者

秋沢 英海氏（20期）

秋沢さんは、新卒で医療機器販売会社に入社後、尊敬する医師の依頼で、当時経営状態が厳しい状況にあった企業を立て直すために営業部長として転職。32歳でその会社の代表取締役社長となり株式上場を果たした後、持株会社を設立。現在は持株会社の代表取締役社長として活躍されています。今回はそんな秋沢社長を、同じ20期の同級生がインタビュー。同級生ならではの楽しいインタビューとなりました。

（聞き手 20期 黒須恵子、種澤園子）



## <秋沢 英海（ひでうみ）氏 PROFILE>

- ・東京都新宿区在住
- ・1960年：高知県室戸市生まれ（今年60歳）
- ・1973年：高知学芸中学校入学
- ・1976年：高知学芸高校入学（20期）
- ・1979年：京都産業大学入学
- ・1983年：新卒として社会人スタート
- ・1992年：(株)タクミコンサーン（現ウイン・インターナショナル）入社
- ・1992年：(株)ウイン・インターナショナル代表取締役
- ・1994年：同社代表取締役社長
- ・2013年：ウイン・パートナーズ(株)代表取締役社長（現任）

◆学芸に入ったきっかけは？

中学校時代は

どんな学生でしたか？

剣道を小学校2年生からやりよって、学芸に行ったのは親父が「川添先生がおるから行け！」って言うたから。小学校6年生のときに、川添先生が学生で全日本優勝したのをテレビで観ちよった。「これは高知の人やぞ」って聞いて、すごい人やな、というのを知ってた。でもその時に先生が学芸に居ったことは自分は知らなかった。

そもそも学芸ってどういう学校か、印象がなかったねえ。室戸の田舎から高知の学校行けいわれて

も、なにがなんやらさっぱりわからなかった。身近に学芸の人なんかいなかったし。いっこの先輩がそうやったかな。同じ学年では8人から10人ぐらいおった。

学芸中学では寮に入っていて、その前は室戸小学校。おとなしい気弱な、引つ込み思案の子やった。学芸のときもおとなしい子やったと思うけど。

寮生活は、相部屋の先輩が高校2年生やったかな。色々教えてくれたんで、そんなに不安はなかったねえ。夏休みも、川添先生が練習ばかりしてたから、10日ぐらいかなあ、家に居たのは。そういうこともあって、あんまり寮で寂しいとかそういう感じはなかったねえ。

黒須：剣道で印象に残っている試合とかあるが？

んー、とくにないねえ（笑）。なんかねえ、中学校のとき選手で出て、しょっちゅう負けてたんよ。同級生が大将で、彼と俺が決勝で負けたから、いっつも2位やった。

でもいっこの学年は強かったねえ。お城の下の致道館、いっつもそこまで行って試合しよった。

黒須：川添先生は、すごいカッコよかったですね。秋沢君の凛々しい表情が、川添先生とうりふたつやったという声がちらほらあったけど。

誰がそんなこといいよった？川添先生に怒られるぞ（笑）。しかし、川添先生は怖かった（笑）。

黒須：剣道の一番よかった成績って覚えてます？

高3の時、インターハイの個人で高知県の準決勝で負けたねえ。



コロナ禍を受け、オンライン会議でインタビュー



そんなにすごいことじゃないよ、小  
学校2年生からやってたからね。

◆中学校の卒業式はツルツル頭

お父ちゃんがPTAの会長で、  
中学の卒業式に来て挨拶する時、俺  
の頭を見て目を剥いてた。俺が頭  
剃ってたから。今、徳島で開業して  
る友達と「明日卒業式やから、ちよつ  
と『きわぞり』しよう」ゆうてから、  
額を剃ってたらバランスが悪くなっ  
てきて、どんどん剃って「もうこれ  
はいかん」ゆうて全部剃って。ほん  
だら、友達も「俺が悪かったから俺  
も剃る」ゆうて、2人がツルツルに  
なった(笑)。

◆高校はとばっちりでやんちゃんに

高校はだいたい週休2日やったか  
らね、サボってて。高2から下宿住  
まいを始めて、そこからえらいこと  
になったのよ。

あー、そのころからスポンがボン  
タンになったんや。あれは、もらっ  
たんちやうかなあ。2年生で下宿し  
たときに、学芸に居ったいっこ上の  
人が、なんかしらんけど、俺の下宿  
に入り浸りして…。いろいろ変なこ

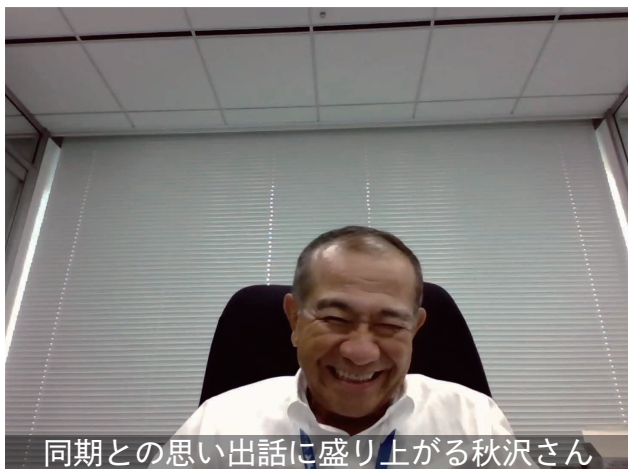
と教えられた(笑)。その人の知り  
合いで、俺の知らん人が俺の下宿に  
いっぱいきよった(笑)。

黒須：高校は修学旅行どこ行きま  
した？

高校はスキー。赤倉。

◆ウイン・インターナショナルって  
どんな会社ですか？

低侵襲医療のための医療機器を  
売っている会社ですよ。無侵襲とい  
うのは、読んで字の如し、侵襲が無  
い。超音波のエコーやったことある



同期との思い出話に盛り上がる秋沢さん

でしょう、あれって無侵襲なんです。  
くすぐりたいぐらいでしょう。手術  
は傷が小さい方が治りも早いし、痛  
くないほうが良いでしょう？血が出  
ないほうが良いでしょう？患者の体  
に負担をかけないようにするのが  
「低侵襲医療」。

◆どういう経緯で32歳で社長に？

新卒で入った会社でも医療機器は  
売ってた。でも、その会社でお家騒  
動があつて、バタバタしたのよ。実  
力主義の会社でもなかったし、「従  
業員ではあつても使用人ではない  
ぞ！」と嫌気がさしてた。

その時、もう亡くなったけど当時  
尊敬していた医師から、この会社を  
助けてやってくれないかと、毎日電  
話がかかってきた。それで根負けし  
て、「はい、わかりました」と返事  
したら、えらい目にあつた(笑)。

完全に潰れかかってた会社だった  
からねえ。人を集めるのはたいへん  
やったなあ。潰れかかった会社に人  
は来ないですよ。お金がない状況が  
2〜3年続いたかなあ。会社の実印  
は仕入先が持つていってねえ、仕  
入先は、当初は債権管理という意味  
でうちの実印を持つてただけ、



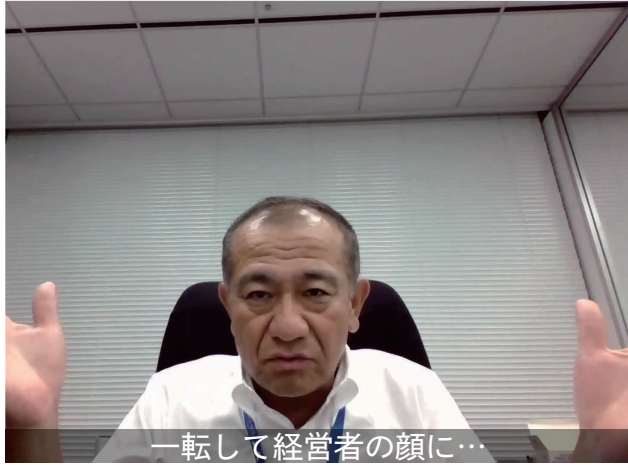
聞き手の黒須さん (20期)

徐々にうちの売上が増えてきたら、  
うちを配下に置きたくなってきたん  
だよ。お断り申し上げて、我々は  
自分たちでビジネスをやりだした。  
30人ぐらいの人数で。今は、グルー  
プ全部で500人以上になったけ  
どね。

黒須：秋沢君、すごいねえ。立派  
になったねえ(笑)。

西田：助けてやってほしいと依頼  
してきた先生からは、社長を引き受  
けてくださいという依頼だったんで  
すか？

それはねえ、トップじゃないと引  
き受けられないよ。「潰れるような  
状態にした本人が俺の上において、そ  
の下で改革をするのは無理ですよ、  
」と言いましたね。最初は営業部長で  
入って、半年後に株主総会開いて、



最終的には前の代表取締役には退いていただいた。  
振り返ってみると、人生いろいろあったねえ。前の会社のお客様がよく助けてくれたねえ。あるお客様が8000万か10000万円ぐらいの機器を発注するって言うてくれたんだけど、当時潰れかかってた当社ではメーカーが売ってくれなかったで、その機器を仕入れることができなかったんですよ。しょうがないから、そのお客様に「すみません」と謝りに行ったら、そのお客様が怒り出して、そのメーカーの担当者を連れて来い！ということになって。連れて行ったら、そのお客様が「俺が

個人保証してやるから、秋沢にその製品を売れ！」という話になったんですよ。いろんなお客様が助けてくれました。

黒須：秋沢君の人徳やねえ。32歳から今60歳で、約半分の人生をかけて、すごいと思います。

西田：今いらっしゃるそのビルには何人ぐらいの社員がいらっしゃるんですか？

ここは、ホールディングスやき、60人ぐらい。営業拠点は、御徒町や、北海道から福岡まであります。

今はコロナもあって難しいけど、以前は月に1回は営業所を訪ねてた。部長たちは月に1回会議で東京に集合します。

人って不思議なもので、「こういうのやっちゃだめだよ」、「こういう風に考えたほうが良いよ」っていうのは頭ではわかるんだけど、体に染み込んでないから同じ間違いをするね。

「お父さんお母さんを大事にしましょう」、「友達を大事にしましょう」って、頭ではみんなわかっているんですよ。「嘘ついちゃだめですよ」とかもね。子供がいるお父さん、



お母さんは子供に「嘘ついちゃだめだよ」って言うてるんだけど、自分は嘘つくんだよね。体でわかってない。

「こいつ、いい年こいてそんな適当な嘘つくのか…」っていうことがあるんですよ。人数が多いと、いろいろありますよ。

西田：やっぱり、そういうときは直接あって話をするために、地方も行くわけですね。

そうですね。でも、行くと肉体的に疲れるんですよ。みんな、酒飲まそうと待ち構えてるから（笑）。

向こうにとつては社長を触る、いじめるチャンスやからね。「もう許してください」ってなる（笑）。

黒須：秋沢君、体に気をつけてください。

◆病院の経営を助けたりも  
するんですか？

支払いを延ばしてほしいといわれるのはよくあるね。うちは、よっぽどひどい病院じゃない限り、全部そういう要望は受けてこいと営業員に言うてある。幸い、うちは資金力があるからさ。

うちはノルマとかないんですよ。医療機器でノルマとか作ると、たいてい変なことになる。間違いない。だって手術がない限り、うちの売上は上がらんやん。「売上を上げるんやったら、患者さんをお客さん（病院）ところに誘導する」施策を取らないと無理なんよ。そういう施策をちゃんと取ると、病院の売上が増えるから病院としても喜ぶやん。患者さんは手術数の多い病院の方が成功率が高くなる。患者さんも幸せになるわけよ。病院も患者も幸せ。それお手伝いをしますということ。



西田..なるほどねえ。どの業界もそうですよ。売ることばかり目標にすると、何をしても売れば良いんでしょう、ってことになる。

なるなる。それはよくないんよ。紹介といえば、病院は、良いお医者さんを紹介すると、うちに「お金払う」っていうのよ。株主の人たちからは「なんでそれを商売にしないの？」っていわれるけど、紹介業が仕事になると、ろくでもないやつも紹介するようになるじゃん、それは良くない。やっぱりちゃんとした紹介をしないとイケない。

取引のない病院の先生からも、良い病院を紹介してって連絡が来る。先生たちがメーカーさんに「転職したいんだけど」っていうと、「ウインに相談したら良いんじゃないですか？」って、メーカーさんがうちを紹介してくれたりね。

西田..すごいですね。業界の中で信頼感ができてますね。

だから、お金も大事だけど、それ以外に大事なものがあって社員にはずっと言い続けてる。お金「が」大事な人っているでしょう？お金

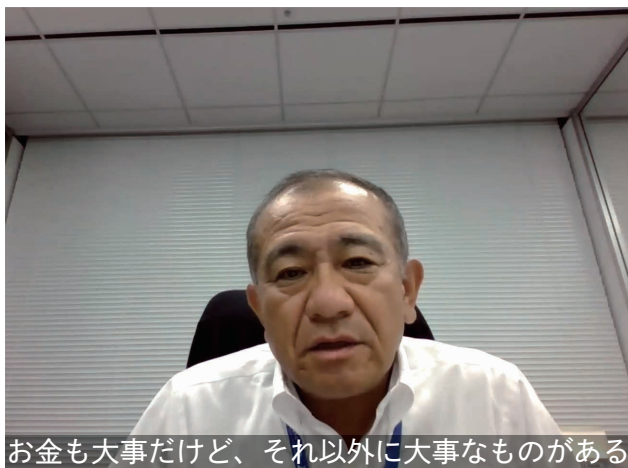
「も」大事だけだね。

◆現在60歳、

これからどうしますか？

65、70、75まで会社に居たら、みんな俺の顔色見るやん。俺が会長になって、別に社長がいたとしても、社長が一番じゃなくて、No.2のままになるやん。そうしたらよくないじゃん。

離れる時は完全に離れる。今の30代から45歳ぐらいの部長の中で、できる人がいつ出てくるか。だめなら会社を売っぱらいますからね、と平気で普段から言ってる。



お金も大事だけど、それ以外に大事なものがある

求められてる能力が昔とは違うんですよ。僕が社長やった時は、会社がぐちゃぐちゃしてたときなんので、とりあえず全体をぎゅっと一つにして、対外的にもそれを示していかなければいけなかった。

でも今はそうじゃなくて、ある一定の評価をいただいている中で、さらにクリエイティブな仕事の仕方をして、外に示していく能力が必要なんです。そこがまだ足りてないよね。

それを僕ができるかっていうと、僕も無理だと思うけど。乱世と平時との差ですよ。

黒須..よくわかりました。

お前、よくわかったというなら、今度、今日の感想文書いて送って来い(笑)。

◆一問一答 これが秋沢社長だ！

種澤..いま、一番充実感を感じることは何ですか？

社員の人がちゃんとした仕事ができたとか、お客さんから社員を褒められたりした時はうれしいよね。



聞き手の種澤さん (20期)

種澤..毎日の生活で欠かさずやっていることありますか？

朝、4時半ぐらいに起きるんですよ。ストレッチして、犬の散歩して、トイレ掃除。夜は20時ぐらいに寝るよ。

西田..はや！

種澤..はや！

黒須..はや！なんか、もう、じじいの生活やない？(笑)

種澤..今ハマってる趣味は？

ゴルフぐらいしかないなあ、今やっているの。60だからね。まともな体が動くのはあと15年。そこから先はだんだん「あなた誰？」って言い出すかもね。

種澤…好きな食べ物は何？

うちはもともと室戸のマグロ漁船やからね。マグロが好きです。田中鮮魚店（2019年総会で特別授業をやってくれた20期の同級生、田中さん）から送ってくるカツオも好きです。

#### ◆高知学芸高校の在校生に

メッセージをお願いします。

真面目な話をする、できれば勉強はしといたほうが良いけど、それがそのまま世間には通用しないよね。僕は全く勉強嫌いだったからね。成績も悪かったし。

ただ、今になって思うと、もう少し、教養とか躰とか知恵とかをつけておきたかったね。たまにやんごとなきかたと会うこともあるんだけど、やっぱり教養とか躰が違う。

学芸は、高知では賢い学校だと言われたとしても、所詮それだけのことや。でも、やっぱりそういう人たちと会ったりすると、自分の出自をなんとなく知らされるね。

今の学芸の勉強がどんなことやりゆうか知らんけど、知識を与える勉強やと思う。知識って知った瞬間か



学芸在校生へのメッセージ

ら古くなるので、その知識をうまく使える「知恵」をつける訓練を学生さんにはしてほしいし、やっぱり教養って大事やなと常に感じさせられるし、立ち居振る舞いも含めた躰も大事。

寝って、身に美しいって書くやんか。やっぱり御飯食べるときの姿勢や食べ方だとかそういう事も含めて、きちんとした教育してもらったほうが良いと思うね。自分で積極的にそういうところに行つて勉強するのも必要だと思います。

〈インタビューを終えて〉

中学高校時代の話をしていたところから、会社や仕事観の話になった途端に、それまでの優しい笑顔からピッと引き締まった顔つきに変わり、聞いている私はおもわず「うんうん」と頷きながら聞き入ってしまった。「お金も大事だけど、それ以外に大事なものがあ」が印象に残りました。

インタビュー終了後に、余興として、あさかぜ編集部より、聞き手の20期 黒須さん、種澤さんに、秋沢さんが取り扱う医療機器に関するクイズを出しました。黒須さん、種澤さんともに、全問正解でした！皆さんも回答してみてください。

（あさかぜ編集部）

31期 西田・36期 藤原



ウイン・パートナーズ(株)  
ホームページ

下記の空欄に適切な言葉を入れましょう

( )とは心筋梗塞等の冠動脈疾患の治療に用いられる金属製の網状チューブであり、バルーン・カテーテルにより冠動脈の病変部まで運ばれ、拡張され、留置されることで血管壁が再び狭くなること(再狭窄)を防ぎ、血流を確保する医療機器です。

下記の空欄に適切な言葉を入れましょう

( )とは細長い管のことで、これを腕や大腿の動脈から入れて血管を通して心臓まで到達させます。そして、心臓の働きや病気の種類・重症度を診断します。また、先端にバルーン(風船)が付いたものもあり、血管(冠動脈)が細くなった部分でバルーンを広げることで血管(冠動脈)を拡張させて血流を確保する治療に使ったりします。



## 各期の声

同窓会に寄せて

6期 吉田 倬郎

「あさかぜのすがしきくに」で始まる学芸賛歌は皆さんよくご存じでしょう。そして、内田八郎作詞であることも、大方の同窓生は覚えておられることと思います。ところで、八郎はペンネームで、本名は祥穂だということをご存知の方はどのくらい居られるでしょうか。内田先生は学芸高校創設に参画され、国語教諭をしばらくお勤めになられた方です。

この内田先生が、「私は教師」という著作を理由に、1974年に解雇という形で退職を申し渡され、これに承知できない内田先生は地裁に地位保全の仮処分申請をされた、と



いう状況にあったことをご存知の方は限られてくるのではないでしょう。そうしたことが東京にいた私たちにも伝わり、当時新進気鋭の弁護士であられた3期生の細川さんを中心に、「高知学芸高校卒業生有志の会」を結成し、1977年秋には「卒業生は訴える 内田先生を再び教壇に」を刊行する運びになりました。ところが、この刊行直前に学校との和解が成立し、内田先生は復職されることとなりました。このあたりの経緯などをここで紹介することはいかにもなじまないのですが、このくらいにさせていただきますが、この時の有志の会の活動が、やがて1988年に同窓会関東支部の結成に繋がっていることを、その後脈々と続く同窓の皆さんに知っていただくことはそれなりの意義があるかな、と改めて感じた次第です。

同窓会といっても、折々の気心の知れた同窓と懇親するのも同窓会ですが、関東支部の結成には、様々な課題の克服があつたようです。有志の会のまとめ役を担ってくださいった細川さんは、その後、衆議院議員、厚生労働大臣を務められる、極めて繁忙な状況の中で、関東支部の結成とその後の運営にご尽力いただいたことは、大勢の方がご存知のことです。当時私たち6期の東京近辺にいるものは、大まかにはクラス単位で同窓会をそれなりにやっていたのですが、有志の会の活動を機に、学年として同窓生の連絡網の整備を進め、期としての同窓会を「関東6期会」と名付け、有志の会の活動が一応収束した後も、様々な活動をやるようになりました。卒業20年目の1985年には、当時ご健在だった恩師もご招待し、20年会を行いました。高知や関西からも駆けつけてくれ、50名ほどの会合ができ、今でも印象深く思い出しています。この後間もなく高知でも6期会の卒業20年会が、それは盛大に行われています。一つの期であれば、それとなくできることであっても、関東支部ということをなると、すべての期が足並みをそろえ、本部にはいろいろとご支援をいただいたり、それなりの調整ごともあり、発足迄には、いろいろとご苦労も多かったようですが、1988年、結成の会を開く運びとなりました。支部の結成とその後の運営につきましては、6期の中では石川現支部長に多大な尽力をいただ

いてきています。

爾来30年を超える支部活動が続いているわけですが、発足時以来のご縁のある先輩後輩、また大勢の同窓生や現役の先生方にお会いできるのはありがたいことです。私どもの同窓会に限らず、若いメンバーが手薄なことが悩みだ、ということがよく聞かれます。各期の同窓会活動が支部同窓会を支えるという面と、支部同窓会が各期の同窓会の良い刺激になる、という関係がうまく循環するといいな、と思うばかりです。

ところで、私も1973年に工学院大学に奉職させていただくこととなり、36年間何とか勤め上げた次第ですが、それは、それまでの、同窓生としての同窓会メンバーとは若干



ペルー マチュピチュにて

異なる形で同窓会に関わることになった、ということにも繋がっています。

奉職初年、教えたこともない卒業生を指導することとなり、四苦八苦した次第ですが、そうした彼らが卒業した年の暮れに、忘年会をやるからぜひ参加するように案内があり、喜んで出たわけです。が、翌年は2学年それぞれ案内をいただくこととなり、その折、このままでは10年後には、卒業生相手の忘年会を10回やることになりかねないことに気付き、3年目からは合同の会にした次第です。準備は折々の卒論生や大学院生にやってもらうこととし、時期は、忘年会では論文作成日程になじまないので秋にしたのですが、これを毎年欠かさず続けてきました。この間、新型コロナウイルスに襲われなかったのが、思えば幸いでした。

定年退職後、卒業生有志から、同窓会をこれまでのように継続したい、という申し入れがあり、喜んで賛成しました。また、現役時には難しかったことですが、卒業生がそれなりの数がある地域から、是非出てくるようにとの案内があり、出かけるようになりまし。東京での同窓会にはなかなか出られなかった懐か

しい卒業生に会えることは嬉しいこととで、また、東京から同行してくれる卒業生もそれなりにいて、これまでも、富山、長野、山梨、静岡に出向きました。今年は福島に出向くべく準備してくれていたのですが、コロナ禍の中で1年延期にせざるを得なくなった次第です。卒業生の中には、高知出身者もぼちぼちおるのですが、退職直後、その中の一人から、校友会（工学院大学の同窓会）高知支部のチャイ役を務めることになったので総会に出てショートレクチャーをやってくれないか、との打診があり、それ以来毎年出ています。が、今年はコロナ禍の中で中止になりました。

このほかに私の同窓会には、出身大学、大学研究室、そして2年前には卒業以来初めて参加した芸西中学の同窓会があります。同窓会というもの維持運営については、様々な側面があることを感じてきています。

学芸高校関東支部同窓会が結成以来今日まで順調に運営されてきている背景に、支部長さんをはじめとする世話役の方々の献身的なご努力があることについては、改めて感謝の念を深くする次第です。

## 二度目の海外赴任が

### コロナにより延期

28期 岡村 恭孝

28期生の岡村恭孝です。プレス工業株式会社という自動車部品・建設機械用部品メーカーに勤務しております。4月1日付で5年間の米国赴任の予定でしたが、コロナウイルス蔓延により外務省より感染症危険情報「レベル3（不要不急の渡航中止勧告）」を发出されたことにより赴任が時期未定の延期となり日本で待機している状態です。

入社してから営業・経理・海外事業部を経て2007年から4年間タイの関連会社に出向して、帰任してからは財務部門に在籍して中国・インドネシアの会社設立業務で日本との行き来の日々が続いております。



昨年米国勤務の打診を受けて赴任の準備を進めてきたところにコロナ禍の影響を受けることになりました。3月に同級生が高知で三翠園を借りて壮行会を計画してくれていましたが残念ながらそれもコロナで中止となりました。

生い立ちですが、父親の転勤で、出生地の高知県安芸市には卒園まで、その後、土佐清水市に小4まで、佐川町で小学校を卒業し、それ以降は高知市に居住して学芸中高に通いました。中学3年間は吉福雄一先生、高1は藤原顕伸先生、高2高3は澤道雄先生が担任でした。在学中は担任をはじめ生活指導の先生方に色々とお世話をおかけしました、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

大学は安倍首相と学部学科が同じ成蹊大学法学部政治学科に入学し吉祥寺に住んでいましたが、大学よりもバイト先の渋谷の雀荘に入り浸っていました。中高大学ではまともにも勉強したことはないですが、人生なんとかこなっております。

行く先々で国籍を問わず沢山の友人に恵まれていることが財産です。特にここ10数年はSNSの発展で旧友の方々と再会が出来たことを嬉し



く思っています。現在自分を含め全世界ありとあらゆる立場の方々がコロナの影響を受けていますが、どんな闇の中においても必ず希望の朝日は昇ります。この難局を乗り越えて再会しましょう。



## 「地域活性化って何よ?」

31期 笹岡悟

高知県いの町で鍛冶屋をしています。31期の笹岡です。48歳、刃物を作ったり、研ぎ直しをしたりで生きてます。

地元の町で仕事をする中で、地域活性化に取り組むことは販路拡大や顧客獲得に繋がると感じ、役場や商工会、観光協会のみなさんと、日々の町の活性化に取り組んでいます。



商店街でのイベントの実行委員長をやったり、活性化を考えるワーキンググループに参加したりで、約10年。最近では後に続く自営業の若者たちと事業の発展や町の活性化について議論をする場面が増えたり、Iターンで商店街に新規の事業者さんが出店してくれたり、ようやくいの町の寂れた商店街にも変化が現れつつあるところです。

イベントの開催や都会からコンサルを招いて助言をもらいながら町の資源である仁淀川や土佐和紙を絡めて様々な取り組みを休むことなく続けてきました。が、だんだん「結局活性化って何よ」というものが見えてきたような気がしています。

たどり着いた答えは「自分が稼ぐ」です。つまり「みんながそれぞれ自分で稼ぐ」です。

仁淀川を始めとする町の豊かな自然や景観に集客しても、そこにお金落ちなければ町は元気になりません。反対に寂れた商店街に出店しても、きちんと意識を持ってビジネスをされてるお店には、お客さんは入ります。そういうお店や事業者を一つ一つ増やしていくしかない。もちろん今までやってきたことが無駄な訳ではなく、そのチャレンジがあっ

たからこそ今の元気や答えに繋がっていると信じているのだけだ。

今回は関東に住む母校の先輩後輩のみなさまへの文章ということですので、みなさまにご提案。

高知出身のみなさまは都会で周りの方々に高知の良さを広めるPR大使として折に触れ高知をアピールしてくださいと思っています。その上で、ふるさと高知の商品を買って食べて使ってみませんか? (もちろん実行されている方もたくさんいると思います。)

日本中どこでも同じ議論「素敵なものを持つているのにPR下手」完全に同意。それは確実に言えますが、もともと関わりがあるみなさまだからこそ、こちらのPR下手は棚に上げてのお願いです。

時々高知の野菜を注文してみる。記念日に土佐の赤牛を食べてみる。お中元やお歳暮に芋けんぴを。友達へのプレゼントに土佐の和包丁を贈ってみる。(この時は是非、笹岡鋏製作所で!)

自分の町の活性化に関わって初めて近所のスタンドでガソリンを入れる重要性を理解しました。今では高知市内の病院を受診してもわざわざ地元まで戻って近所の薬局に処方箋



笹岡鋏製作所の和包丁

を持ち込みます。小さな小さなことですが、その積み重ねの上にしか町の元気はないんじゃないかと。(企業を誘致するとか、何万人のフォロワーに向けて発信するとか、そういう立場になればまた違う行動が出来るのだろうけれど。)

ネット通販をする事業者さんも増えてます。ふるさと納税にもたくさん素敵なものが並んでいます。

ちよつとでも高知のこと気にかけてもらえてるなら、おいしいものを食べるとか良いものを買おうとかで、あらためて高知を応援してもらえたらうれしいなと思います。

こういう発信の機会を与えてくださってありがとうございます。包丁が必要になった時、いの町の鍛冶屋を思い出してもらえますように。

何が起きても

学ぶことはある

35期 藤原裕久

35期の藤原です。今回原稿の執筆を仰せつかりました。高知を離れてもう25年になります。時の流れは早いものですね。

私は出身が本山町という嶺北地方の出身で、通学が遠かったものから、中学から養生寮に入りました。毎日の夕礼で吉田順一先生の薫陶を受けたことが思い出されます。吉田先生は巨人ファンだったので（ちなみに私も巨人ファンです）、原がホームランを打ったら機嫌がよく、皆にアイスを奢ってくれたりしたこともありました。

学芸での生活ですが、部活は中学では体操部、高校では新聞部、また中学では生徒会長をやったりしており、加えて勉学と、それなりに忙しい毎日を送っていました。当時はまだ個性的な先生も多く、いろいろと大変だったのですが、教育に対する熱意が素晴らしく、非常に熱心な指導をしていたのだと思います。また、先輩や同期の友達が大変優秀で、お手本になるような人物が多かったように思います。

アカデミーで1年お世話になった後、東京大学に進学しました。吉祥寺にある高知県人寮でまたもや寮生活となります。政治に興味があり、政治学科に進学し、サークルでは学園祭で首相になる前の小泉純一郎氏を招いて講演会をやってもらいました。ちなみに最近、NHKをつける

とよく見かける岩田明子記者（解説委員）はサークルの3つ上の先輩、前高知県知事の尾崎正直さんは8つ上の先輩です。

その後、インフラ事業に興味があったこともあり、電力会社に就職しました。入社は茨城で、土浦・水戸で2年ずつ勤務しました。ちなみにここでも寮生活でした。その後、本店で企画部、経理部と経験する中で、東日本大震災を経験しました。



冬の藤原ダム

現在でも、原子力事故に関連して多くの皆様にご迷惑をおかけしており、大変申し訳なく思っております。すでにご承知のとおり、事業を取り巻く環境は一変しました。これに

ついては、語り始めると1冊の本が書けるのは間違いないのですが、私の業務について申し上げると、震災直後は全社の収支見直し策定に携わっていました。並行して、資産売却などリストラクチャリングへの対応、取引先金融機関への事業計画の説明など、とにかく目の前の課題を解決することに懸命でした。

少し落ち着いた後は、発電・送配電・販売を一体で行っていた会社を事業毎に会社分割するというミッションに参加することになりました。この業界では誰もやったことのないミッションであり、非常に苦労したのですが、何とか2016年にホールディングカンパニー制に移行することができました。

ここ数年は、危機的状況にあった資金調達の業務に従事しました。社債発行を行うためのIRとして、全国の投資家、金融機関を回りました。実は高知県の投資家、金融機関にも足を運びました。門前払いされたり、「社債で大損した、どうして

くれるんだ」といった厳しいご意見をいただくことも多々ありましたが、「遠くまで足を運んでくれてありがたい」「引き続き応援しているのがんばって下さい」といった暖かい声をうかがったときは、涙が出るほどうれしかったことを覚えております。

ということ、この10年は、とにかく走り続けてきたように思います。新型コロナウイルスの感染拡大もそうですが、人生、いつ何が起きるかわかりません。しかし何が起きてもそこから学ぶことは大いにあります。そこには人との出会いがあり、必ず人間を成長させてくれる何かがあると信じています。今はコロナ禍で誰もが大変かと思いますが、これをマインナスにとらえず、新しい未来を作るきっかけにしていきたいと思いがら過ごす今日この頃です。

あさかぜでは、「各期の声」に投稿していただける同窓生の皆さんを募集しています。日本全国から関東支部の皆さんに近況をお知らせいただける方は、31期西田まで。

junya.nishida@gmail.com



特別企画

部活動報告の

お知らせ

我々の母校、学芸高校の生徒の皆さんは、コロナ禍の影響により、部活動の成果を発揮するはずの発表会やイベントの場が中止や縮小になってしまっています。

そこで、今回の10月24日(土)に開催予定の第33回総会(オンライン開催)では、特別企画として、学芸高校の部活動報告を行う予定です。オンラインでの視聴となりますが、是非、ご覧になって、暖かいエールを送ってください！

特別企画への参加表明をいただいた部の方からメッセージが届きましたので、ご紹介します。

〔コーラス部〕

こんにちは。コーラス部です。私達は現在中高55名で毎日楽しく練習をしています。一昨年、NHK全国学校音楽コンクール全国大会の時は沢山応援に来ていただき、本当にありがたうございました。昨年は惜しくもNコン四国代表を逃しましたが、全日本合唱コンクールで全国大

会に出場し、2年連続の大舞台を築きました。

今年が残念ながらコロナの関係で全ての大会が中止となり、仕方ないと思いつつも胸にぽっかりと穴が開いたようでした。飛沫感染の心配がなかなか練習の許可が下りなかったり、音楽室に全員集まっただけの合わせは禁止された為、中庭で合唱したりと苦労しましたが、今は少しずつ新しい活動が始まっています。

今日はそんな今の私達の元気な歌声をお楽しみください。

〔吹奏楽部〕

関東支部の皆様、こんにちは！吹奏楽部です。現在、中学生55名、高校生24名、全員79名で活動しています。コンサートやコンテストが全て中止となる中、このような演奏の機会を頂きましたこと、感謝申し上げます。

今日は中学生が3曲、演奏致します。1曲目は「鉄腕アトム」のテーマです。この曲は中学校運動会の入場行進で演奏しているものです。2曲目は「となりのトトロ」から「さんぽ」、3曲目はフィンガーファイブでおなじみの「学園天国」です。どうぞ、お楽しみください！

〔マンドリン部〕

初めまして。マンドリン部の顧問をしております上田と申します。この度は皆様方に部活動を紹介させていただくことになりました。残念ながら、コロナ禍により現在は正規の部活動を停止しており、自主練習という形で各々が担当の楽器を練習しております。本日は合奏を披露できないことをご詫言申し上げます。

平時は、1月の定期演奏会と8月の芸西村での合宿の2つが年間を通して

しての大きな活動となっております。

合宿では、老人保養施設「芸西村の家」さんと「芸西病院」さんの2ヶ所で慰問コンサートをしています。

県内にマンドリン部を運営している学校がないので、他校との交流などは無縁の活動をしておりますが、昨年度は全国総合文化祭の佐賀大会に、器楽管弦楽部門高知県代表として参加しました。

高知学芸高校同窓会関東支部 会計報告

(期間：2018.10.1～2019.9.30) 2019.10.17

区分	項目及び概要	金額(円)
【収入の部】	1.前期繰越金	1,091,148
	2.第31回(2018年)総会参加費	530,000
	3.年会費 ・総会当日分(138,000円) ・振込(296,578円)	434,578
	4.祝金(同窓会本部、学芸高校)	130,000
	5.寄付金・銀行利息	32,004
	収入・計	2,217,730
【支出の部】	1.第31回(2018年)総会関係 ・会場・運営費用(学生会館645,148円) ・雑費・交通費(88,863円) ・記念品(10期21,060円)	755,071
	2.機関誌作成・案内状発送 ・「あさかぜ32号」制作費等	538,283
	3.関東高知県人会	30,130
	支出・計	1,323,484
【残高】	次期繰越金	894,246

# 12期生 卒業50周年の お知らせ

12期生の皆様、学芸高校卒業50周年おめでとうございます。

今回の第33回総会はオンライン開催となり、恒例の卒業50周年記念品の贈呈ができません。ため、関東支部幹事会で協議の結果、第33回総会での記念品贈呈は中止し、来年の第34回総会にて、来年卒業50周年を迎える、13期生の方々と合同で、記念品を贈呈することになりました。ご了承ください。

なお、10月24日(土)の第33回総会はオンライン開催となりますが、ご都合がつけば、是非ご参加ください。その際は、卒業50周年を迎えたことに関するコメントをひとこといただける幸いです。ひとりでも多くのご参加をお待ちしております。

(事務局)

## 第33回関東支部総会

### 特別授業の講師紹介

横田道雄先生(理科)



第31回国際生物学オリンピックリモート大会にて、学芸高校3年の金久(かねひさ)礼武(れん)さん銀メダル受賞!文部科学大臣表彰受賞も決定!!  
今年の特別授業では金久さんの指導教諭である理科担当の横田道雄先生から国際生物学オリンピック参加の経緯、学校の方針、苦労話などのエピソードを紹介していただきます。

〔国際生物学オリンピックとは〕

国際生物学オリンピックは1990年に現在のチェコ共和国で第1回大会が開催された。日本は2005年から毎年参加。本年の大会はオンラインで開催され、日本は金メダル1名、銀メダル3名の成績を収めた。

## 同窓会関東支部 役員・幹事名簿

役員	役職	期	氏名
役員	支部長	6期	石川明男
	支部副長	18期	中城千秋
	支部副長	22期	市川浩幸
	会計監査	29期	西前雅志
	顧問	3期	細川泰律

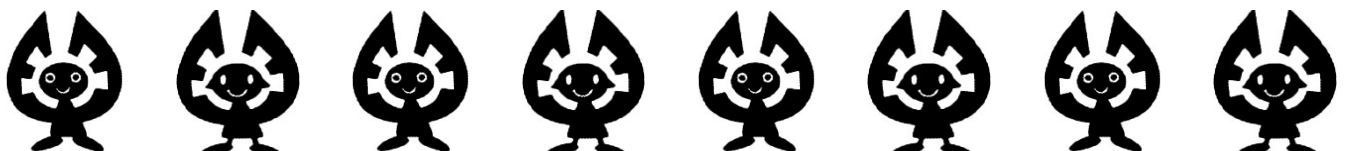
常任幹事	役職	期	氏名
常任幹事	機関誌編集	23期	伊野部京子
		31期	西田順也
		36期	藤原清幸
		41期	長谷川千沙
	H P 管理	30期	上村泰史

学年幹事	期	氏名(旧姓)
1期	國見昌宏	
2期	津野武夫	
3期	細川川	
4期	安藝(大谷)孝彦	
5期	多田(大谷)孝彦	
6期	石川(大谷)孝彦	
7期	佐野(大谷)孝彦	
8期	岡本(大谷)孝彦	
9期	依川(大谷)孝彦	
10期	依川(大谷)孝彦	
11期	内藤(大谷)孝彦	
12期	津野(大谷)孝彦	
13期	中野(大谷)孝彦	
14期	岡田(大谷)孝彦	
15期	西森(大谷)孝彦	

学年幹事	期	氏名(旧姓)
16期	濱崎一彦	
16期	國藤直隆	
17期	加地(森本)千秋	
18期	中城(森本)千秋	
19期	南(前田)三球	
20期	種澤(前田)三球	
21期	山崎章浩	
22期	市野部京子	
23期	市野部京子	
24期	市野部京子	
24期	市野部京子	
26期	木野正一郎	
27期	宇陀村雄一郎	
28期	岡本(前田)三球	
28期	岡本(前田)三球	
29期	西田雅英	
29期	西田雅英	

学年幹事	期	氏名(旧姓)
30期	前田泰志	
30期	友田謙一	
31期	友田順也	
31期	友田順也	
32期	西井(市原)伸	
33期	池(市原)伸	
35期	林直孝	
36期	藤原裕	
36期	岡野清	
37期	坂東真夕	
38期	中山貴洋	
41期	長谷川千沙	
42期	矢野早紀	
43期	森田真行	

学年幹事	期	氏名(旧姓)
43期	土田由紀	
44期	松坂雄介	
50期	山本憲二	
50期	木村優太郎	
53期	岸本拓	
54期	高山橋理	
54期	高山橋理	
56期	池田美結	
57期	神崎内聡	
57期	竹内美由	
58期	島美由	





同窓会会員各位

2020年9月吉日  
高知学芸高校同窓会関東支部  
支部長 石川 明男**高知学芸高校同窓会関東支部 第33回総会のご案内**

高知学芸高校同窓会関東支部の第33回総会は、コロナ禍を踏まえて、10月24日(土)に、ZOOM(ズーム)によるオンライン会議で開催致します(学士会館では開催致しません)。初のオンライン総会となりますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 日 時：2020年10月24日(土)15時～16時30分
- 場 所：ZOOMによるオンライン会議
- 会 費：当日会費 無料  
年会費 2,000円(下記の通り銀行振込でお願いします。学生は無料。)

**式次第**

開 場 (オンライン会議への参加開始) . . . . .	14:30～
総 会 (活動報告、会計報告など) . . . . .	15:00～15:30
特別授業 横田 道雄先生(理科) . . . . .	15:30～16:00
「国際生物学オリンピックについて」	
特別企画 部活動報告 . . . . .	16:00～16:30

- 参加申し込み：下記の関東支部ホームページから申し込みをお願いします。申し込みは、準備の都合上、10月14日(水)までをお願いします。申し込みいただいた方には、開催一週間前を目途に、オンライン会議への参加方法などのご案内をメールさせていただく予定です。

**<年会費振込のお願い>**

年会費(2,000円)は、以下の口座への銀行振込でお願いします。  
三井住友銀行 上野支店(779) 普通預金「8224917」  
「高知学芸高等学校同窓会関東支部 会計 西 雅史」

**<関東支部からの情報発信>**

◎関東支部ホームページ (<http://kochigakugeikantoob.web.fc2.com/>)

関東支部主催イベントのご案内、会員同士の交流のお知らせ、「あさかぜ」のバックナンバー等、ご覧いただけます。総会・懇親会の出席連絡も簡単な操作で可能です。

◎関東支部公式Twitter (アカウント名：@kg\_kob)

ホームページの更新や関東支部からの情報を広く皆様へ発信してまいります。フォローをお願いします。

◎関東支部Facebookグループ (非公開グループ：高知学芸高校同窓会関東支部)

会員同士が自由に情報を発信して交流を図っています。ホームページの更新等も確認できます。Facebookでグループ名高知学芸高校同窓会関東支部を検索し、グループに参加して下さい。既存メンバーに承認依頼するとスムーズです。



関東支部ホームページアドレス

<http://kochigakugeikantoob.web.fc2.com/>

